

国語科 学習指導案

高石市立東羽衣小学校
指導者

1. 日時 2025年11月28日(金)第5時限

2. 学年・組 第2学年3組(30名)

3. 単元名 「お手紙」(光村図書)

4. 単元目標

【知能及び技能】

- ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知(I)才)
- ・文の中における主語と述語の関係に気づくことができる。(知(I)力)

【思考力・判断力・表現力等】

- ・場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思C(I)エ)
- ・文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。(思C(I))

【学びに向かう力・人間性等】

- ・進んで文章の内容と自分との体験を結び付けて感想もち、登場人物に手紙を書こうとしている。

5. 教材観

本単元は、登場人物がしたことを表す言葉に着目して様子を思い浮かべ、登場人物と自分を比べて感想をもつことをねらいとしている。1年生では、「くじらぐも」や「たぬきの糸車」で登場人物の言動を表す言葉を基に、お話を展開を捉えたり人物の様子を想像したりする学習をしてきた。2年生では、「ふきのとう」や「スイミー」で場面の様子や人物の行動をあらわす言葉に着目しながらそれぞれの場面の出来事を確かめ、お話を想像して物語を読む学習を行ってきた。本単元でも、行動を表す言葉や会話文を基に二人の様子を想像し、「自分だったら」と仮定して感想をもてるようにならう。また、本教材は、友だちの不幸せと一緒に悲しむ、やさしい「かえるくん」と、手紙なんて来ないと悲しみ、いじけている「がまくん」の間の心のつながりを描いた作品である。友だちどうしの心のつながりに共感をもって読み取らせることで、自分と二人を比べて読むという活動につなげたい。

単元の終末には、登場人物と自分を比べて、感じたことを登場人物宛の手紙に書いて、友だちと読み合う活動を設定している。題材となっている「手紙」を書くことで、より作品の世界を楽しむことができると考える。

6. 児童観

本学級の児童は、「ふきのとう」や「スイミー」などで、場面の様子や登場人物の心情について話に沿って読む経験をしてきた。それを踏まえた音読発表会ではグループで協力して楽しく取り組む姿が見られた。しかし、音読が好きな児童が多い一方で、「なぜその読み方をするのか」、「登場人物はどう思ったのか」などを問うと、自分の考えに自信をもてず上手く伝えられない児童が少なくない。1学期は、国語や生活科の授業において、思考ツールを使うことで自分の意見を整理する作業を経験してきた。自分の考えを表現することが苦手な児童も、思考ツールを使うことで自分の意見を書いたり発表したりできる場面が少しずつ増えてきている。しかし、自分と異なる意見を受け入れたり、相手の思いを踏まえて自分の考えを伝えたりすることがまだ十分でない。また、現段階では児童間のICT機器を扱う技量に差があるが、色々な経験を積むことで次学年に繋げていきたいと考える。

7. 指導観

本単元では、場面の様子や登場人物の気持ちを想像するための手立てとして思考ツールやICT機器を活用していく。視覚的に分かりやすくすることで、自分の考えを書きづらい児童も自分の考えを持てるようにし、みんなで共有できるようにしたい。各時間のめあてを達成するために、子どもたち自身が、一人で学ぶか、友だちと学ぶか自分で選択する機会を増やし、書くことが苦手な児童も表現できるようにしたい。全体で考えを共有し認め合うことで、正解・不正解ではなく、学びたい・深めたいという姿勢を重視する。この単元をとおして、相手の意見を受け入れ、一緒に話し合う土壤を作っていくという思考態度を育むことを目標としている。本時では、心情曲線を使って登場人物の心情の変化を考えさせる。自分と友だちの考え方の似ているところを見つけたり、違うところはなぜそのような考えをしたのかと一緒に考えたりすることで、登場人物の気持ちを想像し、さらに深めていく。

8. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・身近なことを表す語句の量を増やし、話や文の中で使うことで、語彙を豊かにしている。[(I)才]	・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。[C(I)エ]	・進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想を持ち、登場人物に手紙を書こうとしている。
・文の中における主語と述語の関係に気づいている。[(I)力]	・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。[C(I)才]	

9. 単元の指導と評価の計画(全10時間)

時		学習内容	主な評価規準・評価方法
第一次	1	教師の範読を聞き、感想を交流する。この単元で考えてみたいことを出し合う。(十字チャート)【情I-D-I】【個・協】	◎指導に生かす評価 ○記録に残す評価 ◎教材文を読んだ感想を伝えあい、見通しをもって学習を進めようとしている。 【主】(ワークシート)
第二次	2・3 (本時)	心情曲線を使って「がまくん」と「かえるくん」の気持ちの変化を考える。(心情曲線)【情I-C-I、3-K-I】【個・協】	◎文章の中における主語と述語の関係に気づいている。【知・技】(発言・ワークシート)
	4	手紙に込められた「かえるくん」の気持ちと、「かえるくん」が手紙の内容を「がまくん」に言ってしまった理由について考える。【個】	◎身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。【知・技】(発言・ワークシート)
	5	内容の分かった手紙を待っている「かえるくん」と「がまくん」の気持ちについて、ベン図を使って考える。(ベン図) 【情I-C-I】【個・協】	◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。【思・判・表】(発言・クロームブック)

	6 7	「かえるくん」「がまくん」の行動を自分とくらべて考える。【情I-C-I】【個】	○「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想を持っている。【思・判・表】(発言・ワークシート) ◎登場人物の行動や様子を想像し、積極的に自分と比べて感想を交流しようとしている。【主】(態度)
	8 9	「がまくん」「かえるくん」に、お手紙を書き、友達と交流する。【個・協】	○進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想を持ち、学習課題に沿って、登場人物に手紙を書こうとしている。【主】(発言・態度)
第三次	10	「お手紙」の学習をふりかえり、同じシリーズの本のお話を読む。【情2-F-I】【個・協】	◎学習を振り返り、身に付けた力を今後の学びに生かそうとしている。【主】(ワークシート・態度)

10. 本時の展開

(1) 本時の目標

場面や会話の様子から、登場人物の気持ちの変化を比べ、伝えることができる。

(2) 本時の評価規準

「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。【思・判・表】

(3) 情報活用能力ステップシート【I-C-I、3-K-I】

- ・絵や図、簡単な表を用いて情報をまとめることができる。

- ・基礎的なアプリケーションを操作できる。

(4) 本時の判断基準

十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する子どもへの支援(C)
場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像し、考えた理由や根拠を伝えられる。	場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像できている。	理由が書けない子どもでも交流ができるように、気持ちカードを使って気持ちの変化を伝えられるよう促す。

(5) 本時の学習過程

時間	学習内容	指導上の留意点 ☆支援を要する児童への手立て	評価規準 ◎指導に生かす評価○記録に残す評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の復習をする。 ・音読をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面分けをしたことを復習し、登場人物の気持ちが変化していることにふれる。 ・「がまくん」「かえるくん」「語り手」の役に分け、班で音読をさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">がまくんとかえるくんの気持ちのへんかをくらべて伝え合おう。</div>	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・心情曲線を使ってがまくんやかえるくんの気持ちの変化について考え、本文の根拠となる部分に線を引く。 【情1-C-1、3-K-1】 【個・協】 ・みんなの心情曲線を見ながら交流する。【情3-K-1】 	<ul style="list-style-type: none"> ・クロームブックを用いて心情曲線を表す。 ☆根拠となる部分を見つけることが難しければ、挿絵から考えさせる。 ☆気持ちカードを使うことで、気持ちの変化を伝えられるよう促す。 ・みんなが同じになるとは限らないことを伝える。 ・クロームブックの中でそれぞれ的心情曲線を見て、自分と同じところやちがうところを見つけさせる。 ・感じ方の違いの面白さに気づかせる。 	◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。【思・判・表】(口イロ・発言)
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・読み手によって感じ方が違うことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時へつなげる。 	